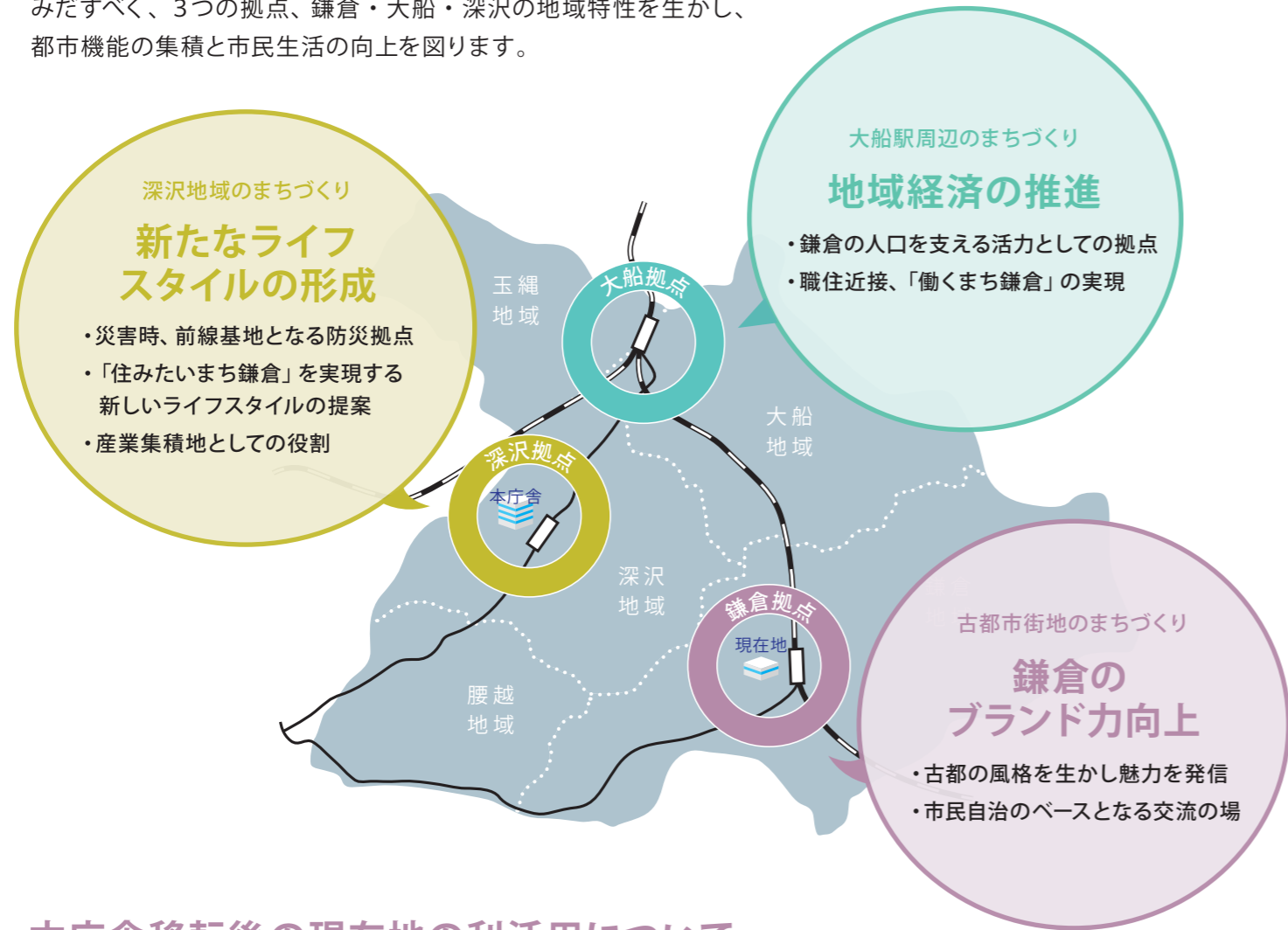


本庁舎づくりと鎌倉のまちづくり

鎌倉市全体の生活・文化・経済の向上につながる波及効果を生みだすべく、3つの拠点、鎌倉・大船・深沢の地域特性を生かし、都市機能の集積と市民生活の向上を図ります。



本庁舎移転後の現在地の利活用について

「公的不動産利活用推進方針（平成30年（2018年）策定）」において、現在地は、「市民サービスの提供・公共施設再編^{*}と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」としてあります。今後、市民の意見等を伺いながら、具体的な検討を進めていく予定です。

^{*}窓口機能の維持のほか、ホール（生涯学習センター）や図書館などの導入により、市民活動等の拠点化を目指します。



基本構想の記載事項

本編では、最新の情報を用いて行った災害リスクに関する再検証結果や、本庁舎整備に向けた今後の進め方やスケジュールなども掲載しています。詳しくは、こちらをご覧ください。

「鎌倉市本庁舎等整備基本構想（本庁舎整備の検討経緯に関する情報・発行物等）」
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/hontyosya-hakko.html>

発行者：鎌倉市 行政経営部 公的不動産活用課 公的不動産活用担当
 電話：0467-23-3000（内線 2565）
 URL: <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/facility.html>

「出前講座」承ります！
 身近な公共施設に関することは、「自分ごと」として知っていただきたいと思っています。取組内容について、自治町内会の会合などの場で職員が説明いたします。お気軽にお問い合わせください！

本庁舎づくりの「今」 鎌倉市本庁舎等整備基本構想 概要版

市制80周年を迎える中、次の時代を見据えた本庁舎づくりに取り組んでいます

本庁舎づくりの基本となる考え方

ビジョンと6つの要素

基本理念

基本方針

市民対話や、有識者等からなる「鎌倉市本庁舎等整備委員会」などの意見を広く聴き、本庁舎づくりの基本となる考え方であるビジョン（基本理念）と6つの要素（基本方針）をまとめました。

誰もが利用しやすい

User-Friendly

市民に寄り添った対応ができる

Personalized

人や民間資金を呼び込む

Community-Building

災害時に頼れる

Reliable

コンパクトで効率的

Efficient

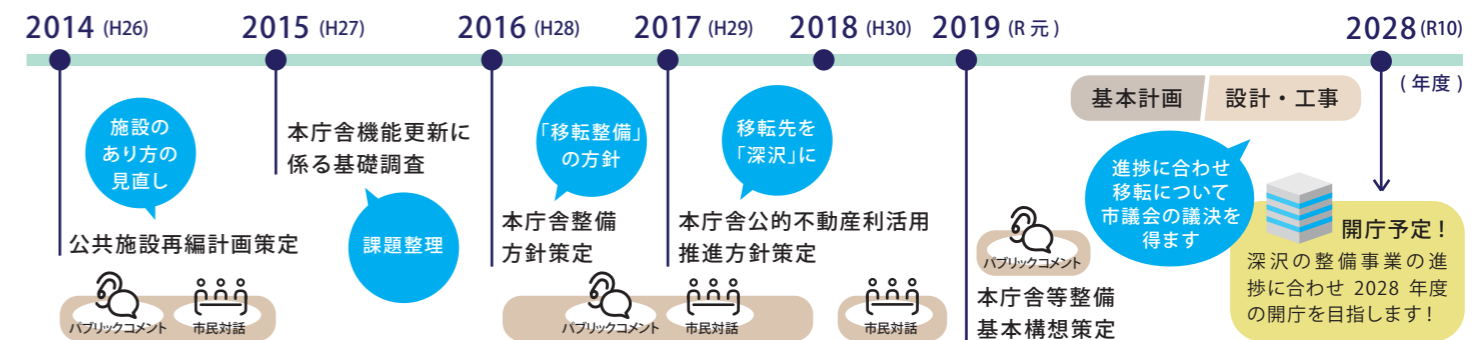
市民のつながりを生かせる

Connected

市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎

検討を重ねて生まれた新たな本庁舎のビジョンの実現に向けて、本庁舎づくりが動き出します！

平成27年（2015年）から、本庁舎整備に向けた具体的な検討を始め、これまで市民対話やシンポジウムなどを行ってきた中で、多様なご意見をいただきながら、検討を進めてきました。



詳しくは中面へ

ビジョンと6つの要素

ビジョン

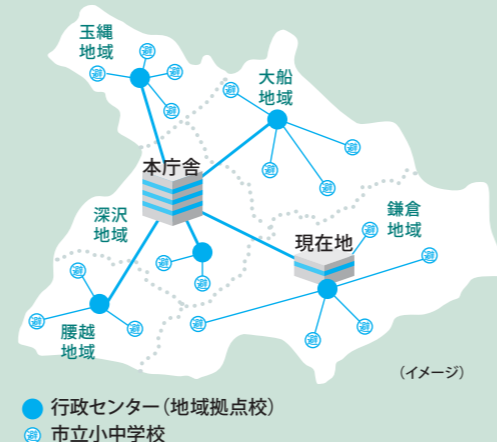
市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎

- ・機能的で、社会情勢の変化に柔軟に対応できる
- ・質の高い行政サービスを提供する場

1 堅固な建物で 災害時に頼れる

- ・災害時に市民の生命を守る前線基地
- ・発災後に業務継続ができる堅固な建物

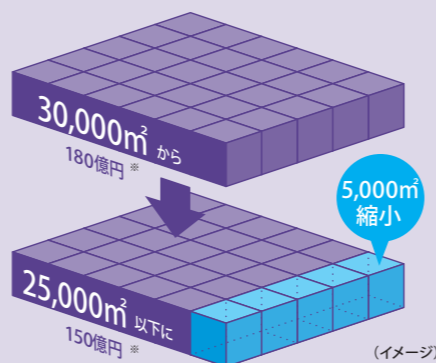
災害時には前線基地となる堅固な本庁舎と各地域の行政センターが連携する防災ネットワークを形成し、市全体の防災対応力を高めます。



2 最小限の機能を備え コンパクトで効率的

- ・利用者の利便性を重視
- ・効率的なスペース利用

未来を見据えた柔軟な空間設計を目指します。



※ 建設単価60万円/m²で試算。今後変動する可能性があります。

3 鎌倉の自然や歴史を感じ、 市民のつながりを生かせる

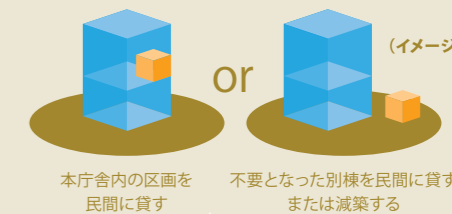
- ・市固有の自然や歴史を感じられる空間
- ・市民同士がつながる市民活動ネットワークの形成



情報発信のスペースを確保し、市民のつながりを生かせる本庁舎を目指します。

4 人や民間資金を呼び込む

- ・ふらっと立ち寄りたくなる場所
- ・民間活力の導入などにより財政負担を抑制



将来にわたって有効に活用できる本庁舎を目指します。

5 市民に寄り添った対応ができる

- ・学びや交流、子育て、起業支援など多様なニーズに応える
- ・豊かな市民生活の実現につながる場



市民の多種多様なニーズに応えられる場や機能を持った本庁舎を目指します。

6 誰もが利用しやすい

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーの実現
- ・来庁者の多様性に配慮した窓口機能



来庁者の多様性に配慮した窓口を目指します。

築50年を迎える現在の本庁舎が直面する3つの課題

① 利用しにくい!

- ・スペースが狭く、プライバシー保護が不十分
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーへの対応の限界
- ・セキュリティー対策への不安

② 効率が悪い!

- ・執務室の分散化による市民利用への支障の発生
- ・狭あいで非効率な執務スペース

③ 心配だ!

- ・震度6クラスの地震後の機能不全への懸念
- ・市民の命を守る前線基地として迅速な復旧・復興を支える必要性
- ・進む老朽化